



みやざき市民活動ドネーション関連記事



# 「小さなNPOの大きな挑戦 子どもの村福岡」

## なぜ、事業が広く支持されるのか

NPO法人子どもの村福岡の数年にわたる努力が実り、「寄付を含めた様々な支援」で平成22年春開村した「子どもの村」。それは、なぜ実現できたか、「資金が集まった理由」に焦点を当て、同法人の専務理事大谷順子さんへの取材を参考にまとめてみました。

\*大谷さんは、11月開催した市民活動講座の講師としてセンターに来館。

### ●「子どもの村福岡」の事業

子どもの村福岡は、育児放棄、虐待などの事情で家族と暮らせない子ども達を迎え入れ、家庭的な環境で地域とともに育てる事業です。

「すべての子どもに愛ある家庭を」を理念とし、「新しい社会的養護」を目指しています。子ども達と育親(里親)が暮らす「家族の家」と「センターハウス」の建設に2億円以上、運営に年間5千万円かかり、これを寄付中心の資金で確保します。

### ●事業が実現した「理由」

#### 1. 事業の目的への共感と「めざすもの」の共有

「新しい社会的養護のしくみ」を創り出すという事業の目的が、多くの人の関心と共感を得たこと。



メンバーは話を繰り返し、子どもの村福岡が「めざすもの」を明確な言葉で共有し、社会にメッセージを発信しました。

#### 2. 子どもの育ちを大切に施設設計

子どもの村の設計は、そこで暮らす子ども達への配慮を最優先した詳細なものです。その考え方に多くの建築関係者から様々な協力を得ました。また、福岡県内の小児科医の方々が関係者に呼びかけ1棟分の資金を

提供しました。

#### 3. 支援者の多様な協力と資金調達の専門組織

後援会は、資金提供にとどまらず支援会員への加入を呼びかけました。また、自力で資金をつくるために、資金部を設置し、企業経験者などからなるスタッフが創意工夫して、資金調達を行いました。



#### 4. 参加し、行動する支援者

支援者は、「寄付」するだけでなく、行動して資金確保に関わります。それが組織の強い結束力と支援の輪が広がる循環へとつながります。

街頭での募金活動への参加、募金箱を設置する「場」の提供、チャリティーコンサートなどのイベントを通じた協力です。

#### 5. きめ細かな広報によるアピール



スタッフは、ホームページや広報誌を通して建設に向けての動きを市民やメディアに対して発信し続けました。具体的な目標(支援会員数、募金箱設置数など)

を定め、寄付に関するタイムリーな報告を行いました。

「子どもの村福岡」に関心をお持ちの方は、ホームページのほか、冊子「子どもの村ができるまで」をご覧ください。(センターで貸出しも可)

また、「子どもの村福岡」の事業は、インターネットのオンライン寄付サイトGive One(ギブワン)でも紹介されています。